

出入国在留管理庁 関係者ヒアリング  
2025年9月30日（火）

事例①地域日本語教育人材養成  
事例②企業におけるコミュニケーション支援

嶋ちはる

国際教養大学専門職大学院  
日本語教育実践領域

## 事例紹介① 「なか東北」

### 「なか東北連携による地域日本語教育専門人材養成講座」

東北3県の連携を通じて、地域日本語教育人材を養成し、  
散在地域における日本語教育の質と持続可能性を高める取り組み

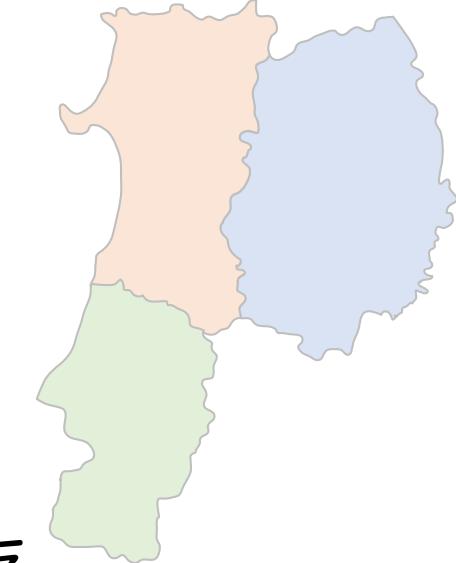
## 【ご質問】 なか東北における外国人との 共生施策について

- 外国人との共生施策の概要、成功している部分、課題となっている部分
- 地域住民（日本人）の反応、地域住民（外国人）の反応について
- 大学、自治体及び企業という複数機関間での連携であるところ、それ故に苦労した点及び良かった点、また、同様の取組をなか東北以外の地域で展開できるかという可能性

# 背景

岩手県・秋田県・山形県

- ・技能実習生を始めとする労働者の増加  
→外国人の多様化
- ・日本語教育資源の不足、ボランティアへの高依存
- ・急速な少子高齢化と人口減少、公共交通機関の不足、冬季の気候等共通する地域事情



⇒地域の事情と課題の似ている3県が連携し人材養成を目指す

# 岩手県・秋田県・山形県における『なか東北連携』による 地域日本語教育専門人材養成事業に関する連携協定



岩手大学国際教育センター  
国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション研究科  
山形大学学士課程基盤教育機構（当時）  
公益財団法人岩手県国際交流協会  
公益財団法人秋田県国際交流協会  
山形市国際交流協会  
特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

（2022年2月協定締結）



# 地域日本語教育専門人材とは

文化審議会(2022)「地域における日本語教育の在り方について(報告)」(p.58)

## 地域における日本語教育の目的・目標

＜目的＞ 言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が**自立した言語使用者として**日本語で意思疎通を図り生活できること。

＜目標＞ 日本語を使って以下の事柄ができるようになることを目標とする。

- 健康かつ安全に生活を送ることができるようになること
- 自立した生活を送ることができるようになること
- 相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようになること
- 文化的な生活を送ることができるようになること

※**自立した言語使用者とは**、「日本語教育の参照枠」におけるBレベル(B1、B2)を指し、特に地域における日本語教育が目指すB1については、「仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる」レベル。

上記の目標を達成する上で、自立した言語使用者としての日本語レベルに到達するまでの学習環境の整備・学習機会の確保に努めることが必要である。

# 「自立した言語使用者」とは(文化審議会2021:7)

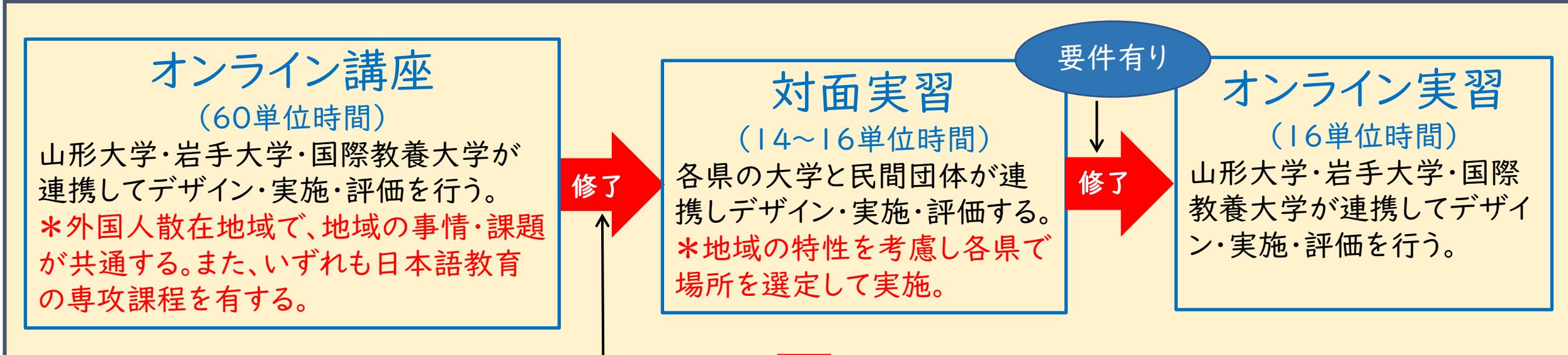
言語使用者	熟達した	C 2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	自立した	C 1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
言語使用者	自立した	B 2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。
	自立した	B 1	<u>仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。</u> 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。
言語使用者段階の	基礎段階	A 2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
	段階	A 1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

# 講座の概要

## (1) 本講座が養成しようとする人材:

- 「自立した言語使用者」B1レベル(文化審議会2021、2022)の日本語能力の獲得を目指す日本語教育を行う者。
- 活動分野(文化審議会2019)「生活」を中心しながら、「就労」、「留学」も対象とする。
- それぞれの学習者のニーズ、接触場面と言語使用、学習者特性等を踏まえてコースデザイン、教授、評価ができる知識・技術・教育観を有する人材。
  - ・文法のみならず、地域社会での生活に必要な知識・地域事情を取り入れた、行動中心の教育を行うことができる。
  - ・外国人が持つ言語・文化を尊重しながら、地域社会におけるさまざまな場面・目的に応じた日本語によるコミュニケーション能力を高める教育を行うことができる。
  - ・外国人のみならず、受け入れ住民(日本人)に対し、外国人とのコミュニケーションスキル、意識向上に資する教育を行うことができる。

## (2) 講座の流れ



文化審議会国語分科会(2019)『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版』「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修の想定単位時間数90単位時間

### 県や市の国際交流協会の人材バンクに登録

講座・実習の評価を要件として、人材バンクに「地域日本語教育専門人材」として登録、企業からの照会に対して情報提供する。



希望者は、日本語教師ネットワークに参加<sub>または</sub>ヤマガタヤポニカに加入  
ネットワーク…カリキュラムデザイン、教材の選定、事業者との契約等に関する情報交換が目的。

### (3) オンライン講座のカリキュラム

#### 第1クール 基礎編（20単位時間）

国・地域の在留外国人施策／「生活者としての外国人」に対する日本語教育  
「生活者としての外国人」の多様性①／言語サービス①②  
「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習①②

#### 第2クール 「学習者を知る」編（16単位時間）

学習方法①②／「生活者」のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習③  
「生活者としての外国人」の異文化受容・適応／外国人住民の社会参加、  
「生活者としての外国人」の多様性②／日本語の学習・教育の情意的側面

#### 第3クール 実践編（24単位時間）

「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソース①②／各種指導法・教授法  
日本語能力の評価①②／コースデザイン演習①～⑤／指導力の評価①②

# 対面実習（秋田・岩手・山形）

	秋田	岩手	山形
費用	無料 (県/国際交流協会予算)	2万円	3万5千円
会場	地域日本語教室	大学	大学
学習者	ALT、技能実習生、 外国人社員	留学生、外国語指導助手	留学生
設定レベル	担当する学習者による	初級前半・初級後半・中級前半	初級後半
授業見学	同会場の実習生の授業を 見学	実習授業を相互に2回以上見学	2回以上見学してもらいたいと指示
模擬授業	なし	実習授業の準備として1人2回	2~3人で2回
実習回数	1人あたり2回 (1回あたり30分~45分)	1人2回~3回×45分	2~3人で2回

# 秋田県の対面実習にご協力いただいた日本語教室

12



2022年度



2023年度

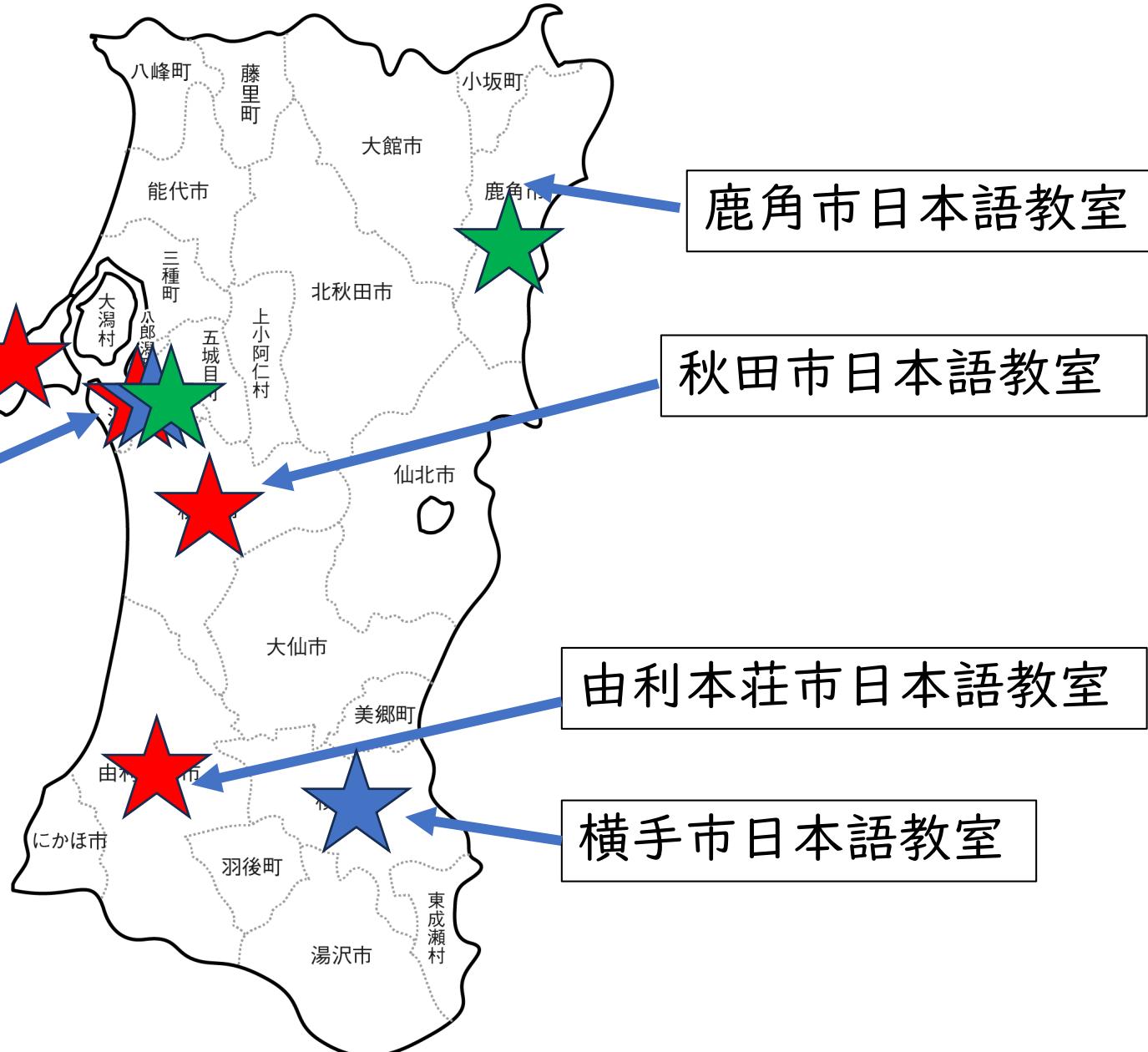


2024年度

男鹿市日本語教室

潟上市日本語教室

指導担当講師を教室に  
派遣する「**出前型**」実習



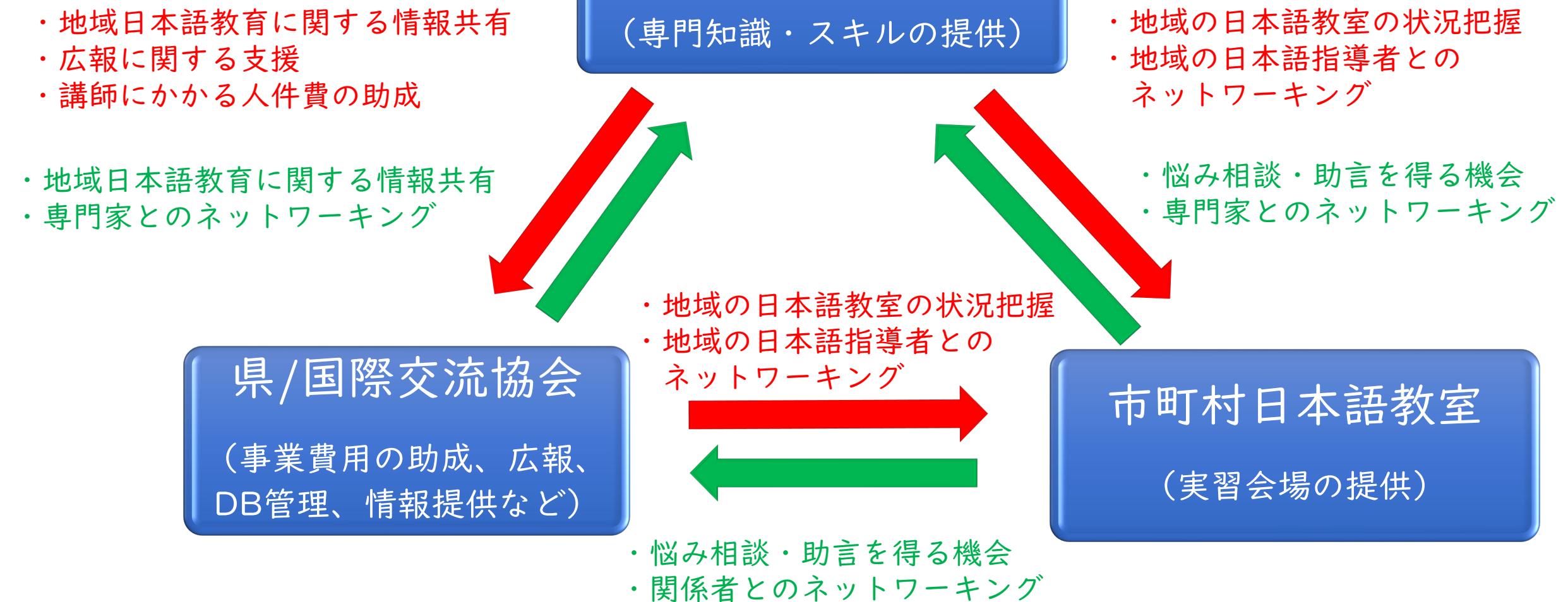
鹿角市日本語教室

秋田市日本語教室

由利本荘市日本語教室

横手市日本語教室

# 「なか東北」にみる連携（秋田県）



## 【ご質問】 なか東北における外国人との 共生施策について

- ・外国人との共生施策の概要、成功している部分、課題となっている部分
- ・地域住民（日本人）の反応、地域住民（外国人）の反応について
- ・大学、自治体及び企業という複数機関間での連携であるところ、それ故に苦労した点及び良かった点、また、同様の取組をなか東北以外の地域で展開できるかという可能性

# 【ご質問】 地域日本語教育人材育成事業について

- 地域日本語教育専門の募集について
- 実施状況（可能であれば費用についても。また、講座のカリキュラムの内容（講座には、生活に必要な知識を習得するような生活オリエンテーション的な要素はどの程度含まれるのか等）
- 講座終了後における受講生の活動状況について（講座終了後、一定の要件のもと「人材バンクに登録」とあるところ、登録状況や実際の活躍状況等について）
- 今後の課題について

# 受講者

## ■受講者数：各県（各年）10名程度

2022年度 31名受講、29名修了

2023年度 28名受講、25名修了

2024年度 28名受講 21名修了

計75名（岩手23名、秋田25名、山形28名）

## ■応募条件：a～dのいずれかに該当する人

a. 1年以上の日本語教授歴（地域の日本語教室含む）がある人

b. 日本語教師養成講座、あるいは大学・大学院の日本語教育課程（主専攻・副専攻）に在籍または修了している人

c. 日本語教育能力検定試験を受験した人

d. 複数日にわたる日本語ボランティア養成・研修、日本語学習支援者養成・研修の受講歴がある人

※aとdの該当者が多い

# 費用

- ・オンライン講座 無料
- ・対面実習 秋田 無料  
岩手 2万円  
山形 3万5千円

# 受講生の活動状況について

## 秋田県のケース

- 人材バンクには全員が登録

## 活動状況

- 所属先の地域日本語教室での活動を継続（代表就任も）
- 秋田市や能代市の日本語指導支援サポーター
- 市の職員、監理団体職員（本務に生かす）
- オンライン日本語教師
- 技能実習生の入国後講習
- 秋田県のオンライン日本語教室の講師（候補）

## 課題

- 登録者の教育力の差（⇒対応を検討中）
- 継続的な研修（OJTの場）
- マッチングや活躍の場の確保

## 事例紹介② 「企業研修」

### 「職場におけるコミュニケーション研修」

企業現場における実践的なニーズに基づき、外国人材と日本人社員の双方にとって効果的なコミュニケーションを支援する出前型研修の試み

# 背景

急激な少子高齢化に伴う労働人口減少を補うため、外国人材の受入れが進み、地域産業を支えている。



「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」(2018~)

…日本語教育の提供・環境整備の必要性、自治体や企業の責務



## 【現状】

- ・受入れ企業における限定的な日本語教育の機会
- ・受入れ企業に対する個別支援の不足（助成金、情報提供の機会は増えているものの…）
- ・企業内における言語・文化を媒介できる人材の不足・不在

⇒コミュニケーション課題が、外国人の日本語能力不足に転嫁

⇒日本語教育から、コミュニケーション研修という視点へ

# コミュニケーション研修の実践例 (秋田県内の建築会社)

## 【事前の情報収集】

### <日本人から>

- ・ 指示を出す場面や日本語でのやりとりの場面
- ・ コミュニケーションに課題を感じる具体的な場面
- ・ 研修の日程や使用可能機器等

### <ベトナム人から>

- ・ 日々の仕事で直面する日本語でのやりとりの場面や理解度
- ・ コミュニケーションに困難を感じる場面や人

# コミュニケーション研修の内容

## 【研修の目標】

### <日本人>

- ・技能実習生が理解しやすいコミュニケーションとはどのようなものなのかを理解し、指示を出す際や雑談をする際などに、意識して実践することができる。
- ・一緒に働くメンバーとして、外国人社員と関係構築をするための働きかけのヒントが理解できる。

### <技能実習生>

- ・指示が理解できないときに、わかったふりをせず、確認をすることができる。
- ・日本人社員と雑談をするために、いくつかの身近な話題について話すことができる。

事前の情報収集等から研修ゴールを設定した  
**「出前型」** 研修

# 当日の研修の流れ(2時間完結を意識)

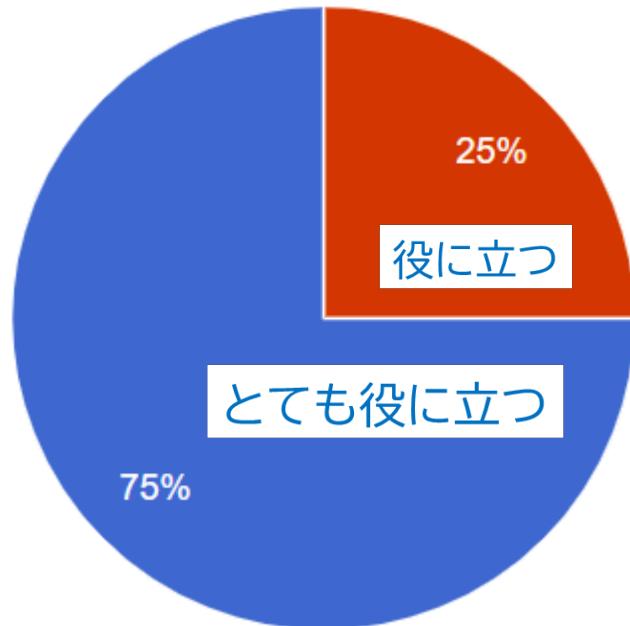
10:00-10:10 趣旨説明	・研修の趣旨、流れの説明 ・研究協力の許諾 (配付資料、スライドは全て、日越の二言語で作成)  【日本人社員】	【ベトナム人技能実習生】
10:10-11:10 研修 第1部 (別室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① やさしい日本語や非言語的な配慮について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい日本語のコツ→変換練習→やさしさ度の確認</li> <li>・仕事における指示場面での応用 (曖昧な表現や省略用語の意識化など)</li> </ul> </li> <li>② ベトナムに関する理解           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムについての基礎知識など</li> </ul> </li> <li>③ 自動翻訳の入力のコツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 指示(「～持ってきて」)の聞き返しについて           <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからなかったことだけ、具体的に聞き返す 例:「(リピート)?」「～ってなんですか」「いくつ／何色ですか」</li> </ul> </li> <li>② 指示の確認           <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動する前に「～ですね」と、理解した内容を確認する</li> </ul> </li> <li>③ 行動の確認           <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行した後に「これでよろしいですか」と、できたかどうか確認する</li> </ul> </li> </ul>
11:20-11:50 研修 第2部 (合同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① やさしい日本語の確認 (日本人が出した指示のわかりやすさを、ベトナム人技能実習生が判定)</li> <li>② 聞き返しのストラテジーの実践(日本人が出した指示に対し、聞き返しや確認などのストラテジーを用いて理解し、行動)</li> <li>③ Google翻訳体験 (Google 翻訳を用いて、お互いの家族などについて、会話を楽しむと同時に、自動翻訳機の限界を知る)</li> </ul>	
11:50-12:00 振り返り(合同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者1人1人が、研修で勉強になったこと、考えしたことなどについてコメント</li> <li>・アンケート記入</li> </ul>	

(練習問題)

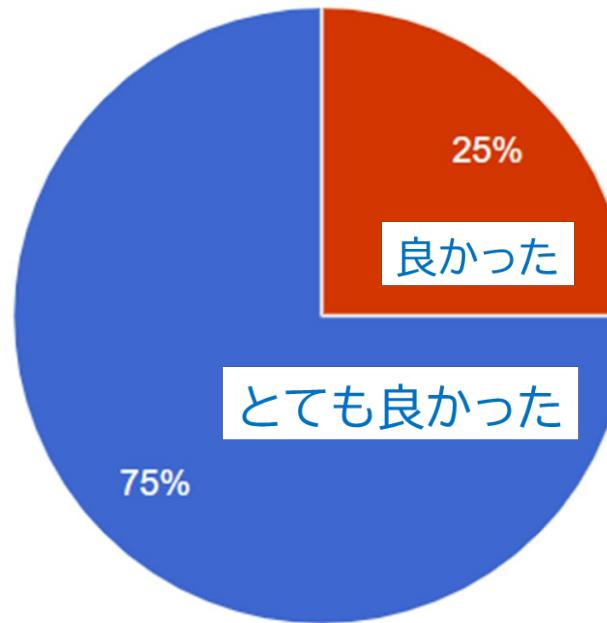
佐藤さんが使ったあとに  
使うから、終わったら、  
インパクトドライバー  
もってきて。



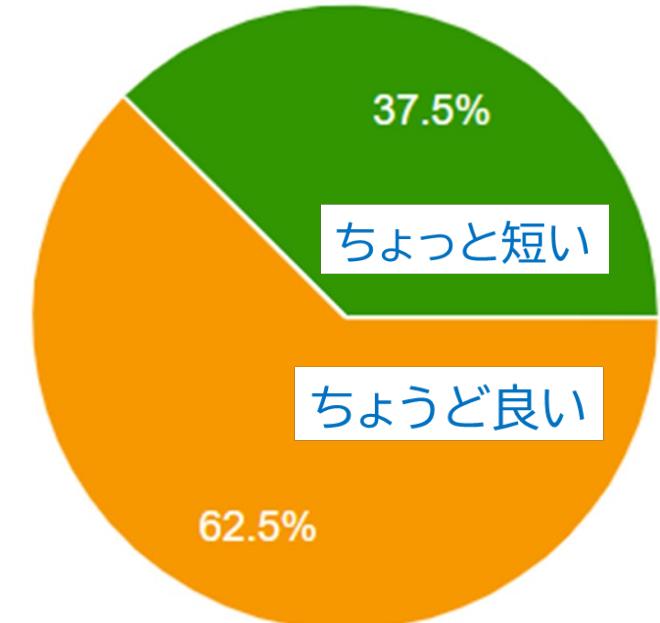
# 参加者アンケート



今日の研修の内容は、今後日本人の同僚や先輩／ベトナム人技能実習生と話す時に、役に立つと思いますか。



研修の構成（前半は、日本人とベトナム人は別々に、後半は一緒）はどうでしたか。



2時間という研修時間はどうでしたか。

# 参加者アンケート

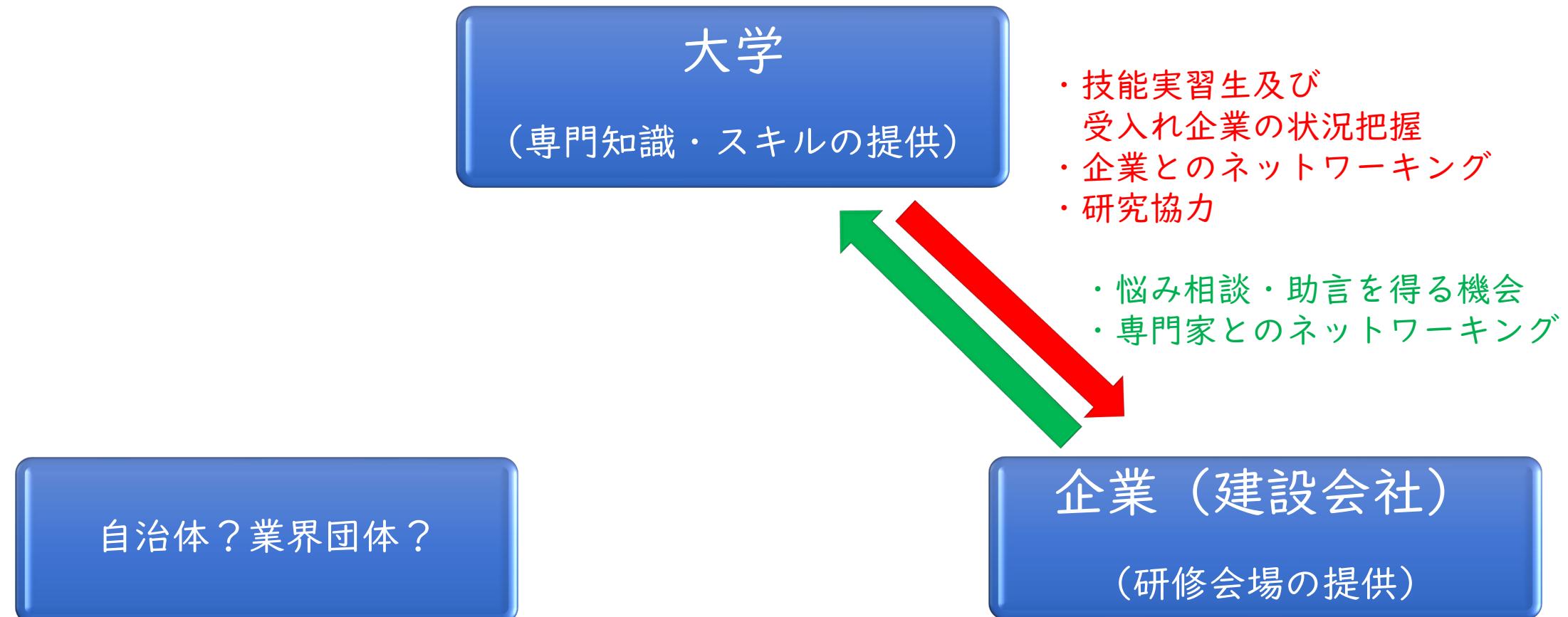
## <ベトナム人実習生>

- ・物の名前がわかって、それをみんなに伝えられると嬉しくなります
- ・皆さんとても親しみやすくて、日本人の人や文化についてたくさん学ぶことができました（発表者訳）

## <日本人社員>

- ・やさしい日本語は伝えやすく伝わりやすいといった日本人にもベトナムの人にお互いにメリットがありこれから先活用できるのではないかなど思った
- ・これから先やさしい日本語を積極的に活用していきたいです
- ・Google翻訳の活用とゆっくりとした日本語での会話が良かった
- ・わかりましたか？と聞くことの無意味さを痛感した

# 「企業研修」にみる連携



大学教員と企業関係者の属人的な連携で実現した研修  
⇒体系的に実施していくためのシステム作りが必要

# 2つの「出前型」研修を通して得た知見と可能性

(1) 集合研修だけでは拾いきれない細かいニーズへの対応

- イマココの課題への対応

- 教室／企業ごとに異なるコンテクストへの対応

(2) 現場視察や意見交換の機会の創出

- 受講生と地域日本語教室とのつながり（出口）の創出（なか東北）

- 日本語教育の専門家からの助言機会

→従来の集合型研修に加え、それぞれの「場」のコンテクストに合わせた細やかな支援の必要性

一方で、人的リソースや予算、波及効果の課題も……

# 自治体、大学、企業との連携に向けて

県内の限られたリソースの把握と有効活用

大学等（日本語教育の専門機関、専門人材）

- 出前可能な講座のリスト化
- 対応可能な人的リソースの整理

自治体等

- 費用助成制度の設計
- 情報周知の仕組みづくり
- 学習者・地域日本語教室・企業等のニーズの把握と「場」つなぎ
  - 日本語教育の専門家と企業/地域日本語教室をつなぐ
  - 地域日本語教育人材と学習者/企業をつなぐ

限られた資源を「見える化」し、必要に応じて提供できる仕組みを作ることが、多様化するニーズに対応するための基盤づくりに必要

## 【ご質問】企業におけるコミュニケーション 研修事業について

- ・就労資格以外の在留資格（家族滞在等生活者）へのアプローチについて
- ・実施状況（可能であれば費用についても）
- ・今後の課題について

## 【ご質問】

- ・ 孤独・孤立について
  - ・ なか東北における外国人の孤独・孤立の状況
  - ・ 日本語教育に関する取組以降、孤独・孤立の状況に変化はあるか。
- ・ 国（法務省に限らず、他省庁を含む）への意見・要望、等

本発表で紹介した「なか東北」事業はJSPS科研費23K0062401、「企業研修」事業はJSPS科研費24K03982の助成を受けたものです。

## 参考文献・資料

- 内海由美子・仁科浩美・今泉智子・松岡洋子・嶋ちはる（2023）「3県連携による地域日本語教育専門人材の養成－外国人散在地域の試み」『多文化社会と実践研究』vol.0. 多文化社会専門職機構：59-77.
- 嶋ちはる・島直子（2025）「技能実習生と日本人社員のコミュニケーション研修の実践と課題—建設会社での取り組みから—」異文化間教育学会 第46回大会 ポスター発表
- 文化審議会国語分科会（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版』
- 文化審議会国語分科会（2021）『日本語教育の参照枠 報告』
- 文化審議会国語分科会（2022）『地域における日本語教育の在り方について（報告）』